

研究課題「成人期自閉スペクトラム症者における被害妄想的観念の影響要因の検討」
にご参加頂いた皆様へ

【研究概要】

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorders; ASD) を抱えた方は、長期的な対人関係の形成において困難を抱えやすく (Frith, 2004), いじめ被害や虐待などの対人的な被害を受けるリスクが高いことが明らかになっています (Hoover et al., 2018)。このような経験は、解離などの精神症状を生み出すことが知られています。しかし、成人期の ASD 者の解離は十分に研究されておらず、ASD が無い方との解離の差異や ASD 傾向自体との関連といった点について、より多くの研究が必要とされています (Ruben & Parish, 2022)。

そこで、本研究は、既の実施した研究である「成人期自閉スペクトラム症者における被害妄想的観念の影響要因の検討」のデータの一部を用い、成人期 ASD 者に生じる精神表現性の解離の特徴の検討を目的とします。

【研究課題】

成人期自閉スペクトラム症者と一般集団における解離の差異の検討 (倫理審査承認番号: 19327-240807)

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関: 新潟医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科

研究責任者: 村上 元 (准教授)

担当業務: データ保管、保存、解析

【研究期間】

倫理審査承認後 ～ 2029年6月30日

【対象となる方】

研究課題「成人期自閉スペクトラム症者と一般集団における解離の差異の検討」にご参加いただいた皆様

【研究の目的】

成人期の ASD がある方は、いじめや虐待など ACE を経験しやすく (Berg et al., 2016; Hoover et al., 2018), 一般集団よりも解離が生じるリスクが高いことが明らかになっています (Ruben et al., 2021; Ruben & Parish, 2022)。しかし、ASD がある方の解離の特徴は詳細に検討されていません。そこで、本研究は解離に関する研究において広く用いられて

いる Dissociative Experiences Scale (DES) を用い (Holmes et al., 2005), 成人期 ASD 者に生じる精神表現性の解離の特徴を検討することを目的とします。

【研究の方法】

本研究は、「成人期自閉スペクトラム症者における被害妄想的観念の影響要因の検討」という研究で使用したデータの二次的な分析を行う研究です。

研究課題「成人期自閉スペクトラム症者における被害妄想的観念の影響要因の検討」にて収集したデータのうち、「年齢」「性別」「自閉スペクトラム症についての尺度得点」「解離についての尺度の得点」「いじめの被害経験についての尺度得点」のデータを再分析いたします。この研究は、新潟医療福祉大学倫理審査委員会の承認を受けて実施するものです。研究にご参加いただいた皆様に、新たにご負担いただくことはありません。

本研究からの辞退を希望される方は、2024年8月31日までに下記問い合わせ先へのご連絡をお願いいたします。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される情報・データ等は外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に従い、個人情報を適正に保護・管理いたします。

研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌、国内及び海外のデータベース等で公表します。収集したデータは厳重な管理のもと研究終了後10年間保存されます。保管期間終了後には、保存媒体を物理的に破壊することで電子データは破棄します。

本研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。また、あなたへの謝金はございません。なお、研究データを統計データとしてまとめたものについては、お問い合わせがあれば開示いたしますので下記までご連絡ください。

2024年7月20日

【問い合わせ先】

連絡担当者：村上 元 新潟医療福祉大学リハビリテーション学部作業療法学科

〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

TEL: 025-257-4401 (直通) E-mail: tsukasa-murakami@nuhw.ac.jp